

食料・農業・農村政策審議会甘味資源部会（要約版）

【日時】平成30年9月11日(火)15:27~17:30

【議事】平成30砂糖年度に係る砂糖調整基準価格案及び平成30でん粉年度に係るでん粉調整基準価格案について

【1】砂糖の需要拡大

- 砂糖やでん粉の需要増加対策に力を入れていくべき。砂糖やでん粉の需要低迷を解決しないと糖価調整制度の先行きも見えてこない。また、需要低迷は、生産地の地域経済にも影響を及ぼす。（矢野委員、樋口委員、中村委員、小野寺委員）
- 国産砂糖の需要拡大のため、国内産の甘味資源を使っていることをもっと売りにして、より付加価値を高めるべき。（三輪委員、里井委員）
- 砂糖類に関する正しい情報を広く研究・発信し、砂糖に対する言われの無い批判を正すべき。（樋口委員）

【2】人工甘味料・異性化糖

- 人工甘味料が、砂糖に対してどのような影響を与えていくか、制度の立て付けにどのような影響を与えるか、注視してほしい。（三輪委員、樋口委員、太田委員、小野寺委員）
- 異性化糖と砂糖の関係について、棲み分けはできているという認識もっている。（太田委員）

【3】生産現場の課題

- さとうきび産業の維持発展には、生産性の高い担い手の育成が急務である。担い手育成には、植付けから収穫まで、農作業の100%の機械化が必要である。（上江洲委員、田村委員）
- 工場においては、働き方改革に伴う残業時間の削減や人員の確保等が将来の大きな課題となる。（上江洲委員、田村委員）
- 国が責任を持って、脆弱なライフラインの強化策を早急に構築することが必要。（中村委員）
- さとうきび増産基金は、自然災害に対して大変重要な役割を果たしているため、基金の継続、拡充が重要。（上江洲委員、田村委員）

【4】高齢化社会、人口減少への対応

- 日本が確実に迎えることとなる高齢化社会、人口減少を見据え、しかるべき糖化調整制度のあり方について、研究を進めていくべきではないか。（有田委員）

※ 調整基準価格案について、異論は出なかった。